

政務活動報告書

会 派 名 さくら未来

年 月 日	2019 年 8 月 1 日 ~ 2019 年 8 月 1 日			
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	東京都 東京ビッグサイト7階 国際会議場 弘前駅~新青森駅~東京 電車移動にて			
相手方 (会議名等)	全国地方議会サミット2019			
	ローカル・マニフェスト推進連盟、マニフェスト大賞実行委員会			
参加議員名	今泉昌一			
活動の概要	別紙のとおり			
※会議・研修資料等があれば、添付してください。				
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号	支払証明書番号
	参加費	10,000 円	5	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
	合計額	10,000 円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり			

地方議会サミット 2019 の概要について

日 時	令和元年 8 月 1 日 (木) 13 : 00 ~ 17 : 30
開催場所	東京ビッグサイト
研修テーマ	チーム議会が地域をより良くする
地方議会サミット 2019 概要	
<p>概要</p> <p>はじめに【基調講演】として早稲田大学名誉教授の北川正恭氏より「なぜ今“チーム議会”が必要なのか」についてお話いただいた。執行部の監視役ではなく、政策提案のできる議会にならなければいけない。そのために議員だけではなく、議会事務局も一体となった議会運営がこれから重要になってくるといった内容であった。</p> <p>次に、「NHK地方議員 2 万人アンケートのホンネ」、「チーム議会に職員だからできること」という 2 つのテーマで【パネルディスカッション】が行われた。前者は、NHKによるアンケート結果を踏まえ、これからの地方議員に求められる資質や能力などについて議論が行われた。後者は議会事務局の職員による意見交換が行われ、議会運営は議員だけが担うのではなく事務局職員も一体となって運営されることでより良い成果が生まれているという内容である。</p> <p>次に、【先進事例紹介】として「AI・ICTで議会の未来を切り拓く」という内容で松田崇義氏の講演が行われた。情報技術の活用は議会運営においても必要不可欠であり、これら技術革新を有効に活用することが今後ますます求められる。</p> <p>最後に「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」と題して元総務大臣である片山善博氏の【講演】があった。地方が抱える複雑かつ多様な問題にどう対処していけばいいのか。それらを解決するために議会があり、議員がいる。今一度、議会・議員の役割を市民含めみんなで共有していくことが必要となる。</p>	

視察の概要について

日 時	令和元年8月1日(木) 午後1時～午後5時
研修名	地方議会サミット2002
研修内容	チーム議会について
所感	
<p>「チーム議会」という考え方を、強く意識させられた。</p> <p>地方創生の主体は「地方自治」にある。各県、各市町村が、国からのお仕着せではなく、独自の発想と独自の行動力をもって、地域の課題を解決していかなくてはならない。そのためには、より一層の、政策立案力・財政運営力が求められる。</p> <p>従来、議員は、いわば個人事業主であった。市長はもとより、議長とも、雇用・主従の関係はもたない。議員個々の視野や価値観の中で行動をしてきたことは否めない。</p> <p>が、一方で、議会は合議制を礎とする機関である。多数決を以て議会の意思とする。そのために、理事者側の議会工作や会派間の合従連衡が横行してきた。</p> <p>市長提案の議案を審議しているうちは、それでも良かったのかもしれない。が、これからの地方自治に求められるのは、先も述べた通り、政策立案力である。議会としての政策条例提案を、活発に行わなければならない。</p> <p>以上の点を踏まえて、「チーム議会」の実現のために、下記の事項を提案したい。</p> <ol style="list-style-type: none">1, 会派を越えた研修会・勉強会の実施2, 議員間討議の実践3, 議会としての市民懇談会の実施4, 議会事務局と議員との頻繁なる意見交換の場の設置 <p>議員各自には、それぞれ信念なり理想はあろう。裁決時に相違が生じるのは致し方ないにしても、そこに至るまでは、徹底して協議することができる環境が、何よりも大切だと痛感した。</p>	

8/1-2 東京ビッグサイト 7F国際会議場



北川 正壽氏
早稲田大学名誉教授



片山 信博氏
早稲田大学教授



江藤 俊昭氏
山梨学院大学教授

全国 地方議会 サミット



廣瀬 克哉氏
法政大学教授

～チーム議会が地域をより良くする～



番津 久氏
衆議院議員



石破 茂氏
衆議院議員



津坂 健二氏
衆議院議員

地域を変えるためには、議員だけでなく、議会事務局・執行部、学生やNPOなどの市民、有識者などが団結し「チーム議会」となることが必要です。今回のサミットでは、チーム議会として議会改革の次のステージへと歩みを進める先進的な議会が東京ビッグサイトに集結し、私たちが目指すべき議会の今後のあり方を議論します。

《概要》

【日時】2019年8月1日(木) 13:00~17:30
2019年8月2日(金) 09:30~16:00

【場所】東京ビッグサイト 7階国際会議場
(東京都江東区有明三丁目11-1)

【対象】議会議員、議会事務局職員、一般 1,000名

【主催】ローカル・マニフェスト推進連盟
マニフェスト大賞実行委員会

【共催】早稲田大学マニフェスト研究所

【参加費】現職議員 10,000円
議会事務局職員、一般 5,000円



ゆりかもめ「東京ビッグサイト」徒歩3分
りんかい線「国際展示場」徒歩7分

※【最終締切：7/31(水)まで】。参加費は7月31日(水)までにお名前を明記しお振込みください。手数料はご負担ください。
※必ず事前に振込をお願いします。不測の事態により中止の場合には、ご連絡のうえ返金させていただきます。

(三菱UFJ銀行 日本橋中央支店 普通 0200471 一般社団法人マニフェスト研究会)

※参加費は1日のみの参加でも上記金額となります。

お申込み ▶ 裏面FAX用申込み用紙またはwebサイトから
<http://www.local-manifesto.jp/gikaigiin/>

お問合せ ▶ 早稲田大学マニフェスト研究所(担当:長内、中村)
TEL:03-6214-1315 / E-Mail: mani@maniken.jp



■ 1日目：8月1日（木）13:00-17:30 ※プログラムは変更の可能性がございます

【基調講演】「なぜ今“チーム議会”が必要なのか」13:00～

北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

【パネディスカッション】「NHK地方議員2万人アンケートのホンネ」13:20～

江藤 俊昭氏（山梨学院大学教授）

杉田 淳氏（NHK報道局選挙プロジェクト副部長） 久保 隆氏（NHK報道局選挙プロジェクト記者）

【パネディスカッション】「チーム議会に職員だからできること」14:20～

清水 克士氏（滋賀県大津市議会局次長）

小原 昌江氏（岩手県北上市議会事務局議事課長）

岩崎 弘直氏（茨城県取手市議会事務局次長）

小林 宏子氏（東京都羽村市議会事務局長）

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その1）」15:45～

松田 崇義氏（株式会社メディアドゥ smart書記事業部長）

【講演】「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」16:20～

片山 善博氏（早稲田大学教授、元総務大臣）

【総括】 北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）17:20～

■ 2日目：8月2日（金）9:30-16:00

【先進事例報告】「チーム議会の実践と課題」9:30～

千葉 茂明氏（月刊「ガバナンス」編集長）

早苗 豊氏（北海道芽室町議会議長）

諸岡 覚氏（三重県四日市市議会議長）

梅村 均氏（愛知県岩倉市議会議長）

【パネディスカッション】「チーム議会の視点から首長との関係を考える」10:30～

北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

谷畑 英吾氏（滋賀県湖南市長）

越田 謙治郎氏（兵庫県川西市長）

上村 崇氏（京都府京田辺市長）

【先進事例報告】「チーム議会の視点から選挙のあり方考える」12:20～

中村 健氏（早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

則武 宣弘氏、中原 淑子氏、林 敏宏氏（公明党岡山市議団）

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その2）」13:00～

米田 英輝氏（東京インタープレイ株式会社代表取締役）

【パネディスカッション】「チーム議会の視点から市民との関係を考える」13:40～

佐藤 淳氏（青森中央学院大学准教授）

瀧野 良枝氏（長野県飯綱町議会議員、元飯綱町議会政策サポーター）

竹下 修平氏（愛知県新城市議会議員、元新城市若者議会議長）

原口 佐知子氏（静岡県牧之原市市民ファシリテーター）

田口 裕斗氏（岐阜県可児市議会高校生議会、現立命館大学3年）

【パネディスカッション】「国会は地方議会をどう見ているか」14:45～

石破 茂氏（自由民主党衆議院議員、元地方創生担当大臣）

稲津 久氏（公明党衆議院議員、党地方議会局長）

逢坂 誠二氏（立憲民主党衆議院議員、元ニセコ町長）

廣瀬 克哉氏（法政大学教授）

【総括】 北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）15:45～

《 FAX申込み用紙 ▶ 03 - 6214 - 1186 》

※項目全てにご記入下さい

お名前

電話番号

ご所属

メールアドレス

参加内容

1日目研修会

2日目研修会

政務活動報告書

会 派 名 さくら未来

年 月 日	2020 年 1 月 28 日 ~ 2020 年 1 月 29 日			
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	山形県遊佐町および酒田市 弘前駅～遊佐町、酒田市～弘前駅 電車移動にて			
相手方 (会議名等)	山形県遊佐町役場～時田博機町長、後藤夕貴教育委員会課長補佐 山形県酒田市産業振興まちづくりセンター～平尾清コンシェルジュ、守屋淳議会事務局主査			
参加議員名	今泉昌一・竹内博之・成田大介			
活動の概要	別紙のとおり			
※会議・研修資料等があれば、添付してください。				
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号	支払証明書番号
	旅費	38,600 円	14	
		円		
		円		
		円		
		円		
	合計額	38,600 円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり			

行政視察の概要について

日 時	令和 2 年 1 月 28 日 (火) 午後
視 察 先	山形県遊佐町
視察項目	少年町長・少年議員の取組について
視察内容の概要	
<p>概要</p> <p>遊佐町は山形県の最北端、秋田県との県境に位置し、人口約 14,000 人で面積は約 208k m²。出羽富士とも称される鳥海山をはじめ、町内の至る所で湧き出す伏流水など、多様な自然に恵まれた土地である。視察の目的は「遊佐町少年町長、少年議会」の取組である。今回は現町長である時田氏と、現子ども町長及び子ども議員（計 3 名）と直接面談し、取組について当事者より話を聞くことができた。</p> <p>「遊佐町少年町長、少年議会」とは遊佐町在住の中高校生及び遊佐町に通学する高校生を対象とした事業であり、事業目的は主に次の 3 つが挙げられる。①若者たちが、自らの代表を直接選び、政策を実現していくことで、学校外で民主主義を実際に体験・学習することにより社会の構成システムを学ぶこと。②中高校生等の未来を担う若者の視点から、町政への提言や意見を町が積極的に採り上げることを通じて、若者の町政参加を促すこと。③この事業に関わるすべての関係者が、若者の町政に対する意見に学び、併せて若者たちが、社会システムや民主主義を相互に学ぶ場とすること（相互教育）。</p> <p>この事業の最大の取組は、子ども町長及び子ども議員たちが定期的集まり（全員協議会）、町政発展のためのアイデア出しや議論を尽くした後、その成果物について予算処置を行っていることだ。意見を出して終わりではなく、子どもたちの意見が実際に町政運営に反映されることで、まちづくりに参画している実感を得られる。その経験が町への関心の高まりや、愛着を醸成することに繋がり、町の将来を担う人材となり得ると担当者は言う。</p> <p>現子ども町長及び子ども議員との意見交換では、学校の先生や親以外の大人と交流することや、人前で話をする機会が多いことで、「自分の意見や考えに自信を持つことができた」、「自分が本当に挑戦したいことは何かを考えることができた」など前向きな意見が沢山でてきた。また、自分たちのアイデアや意見が町政に反映さえることは「私たちの声や考えも町の発展には重要なんだ」と実感することができたと言う。</p> <p>まちづくりに主体性を持って関わることが自身の成長に繋がることを実感し、何よりもまちづくりに参画していることが楽しいというのが子どもたちから強く伝わってきた。</p>	

行政視察の概要について

日 時	令和 2 年 1 月 29 日 (水)
視 察 先	山形県酒田市
視察項目	データマーケティングを活用した地域活性化について
視察内容の概要	
<p>概要</p> <p>酒田市は、山形県の北西にある人口約 11 万人の庄内北部の都市である。県内人口は第 3 位。庄内空港と山形県唯一の重要港湾酒田港がある。</p> <p>今回の視察項目「データマーケティングを活用した地域活性化について」は東京都港区にある㈱TrueData（トゥルーデータ）とのパートナーシップ協定の締結がカギとなっている。㈱TrueData が持つ約 5000 万人の買い物情報や過去 10 年分の購買データ等のビッグデータを活用し、地元企業の事業展開サポートや、データマーケティングを行える地元人材の育成を行う。自治体とデータマーケティング企業が連携し、地場企業へデータマーケティング手法を導入し、経営サポートを行うことは全国的にも珍しい取り組みだという。そして、それら機能の拠点場所となっているのが「酒田市産業振興まちづくりセンターサンロク」である。</p> <p>今回、私たちへの事業説明を行ってくれた職員 3 名は全て外部の専門人材であり、地方銀行や経済産業省からの出向者、そしてその中心を担っているのが大学講師などを務める平尾清氏である。東京のビッグデータを取り扱う㈱TrueData が山形県酒田市とパートナーシップ協定を結ぶことができた背景には平尾氏と、㈱TrueData 社長との人的ネットワークもあった。</p> <p>本事業の最大のポイントは上記した専門人材の登用である。マーケティングや企業診断、経営者が中心となり事業を展開サポートし、市のプロパー職員は事務局的な役割を担っている。産学官民連携はそれぞれの得意分野を集積させ、地域活性化についてそれぞれが役割を果たしていく、本事業からはそれらを多分に読み取ることができた。今回の視察項目は 2019 年 6 月にパートナーシップ協定を結びスタートしたものであり、成果については今後様々な形で出てくると予想される。</p>	

行政視察の所感について

日 時	令和2年1月28日(火) 29日(水)
視察先・項目	山形県遊佐町～子ども町長、子ども議会の取組 山形県酒田市～データマーケティングを活用した地域活性化
視察者氏名	今泉 昌一

●山形県遊佐町

主権者教育・民主主義教育という視点で、弘前市の「こども議会」との違いを考えた。以下に、思いつくままに記す。

1, 自主的・自発的であること

遊佐の少年町長・少年議員は、立候補制である。自ら志願して、その職についている。最近では少なくなったようだが、立候補者が定数を上回れば、選挙になる。自らの政策を掲げ、投票を呼び掛ける。弘前市の場合、各校の代表者が出席しているが、その選出の方法は明らかにされていない。

2, 通年制である。

遊佐町の場合、5月に選挙(選出)が行なわれると、翌年1月の活動報告会まで、年間20にも及ぶ、会議や事業参加を続けている。決定したことの、実践や検証まで、自らの責任で行なっている。

3, 事業実施予算がある。

少年町長・議員には、年間45万円の予算執行権が与えられている。その中で、有権者(中・高校生)の希望を聞きながら、自ら事業案を策定し実施する。通学路の街灯、スタディースペースの設置等、その予算で賄いきれないものには、行政が補正予算で対応する。言い放しではなく、言ったことを実現出来る。その喜びが、子どもたちの政治参画意識を高めているものと思う。

4, 大人との接点を持ち続けている

少年町長・議員は、年間の活動を通して、町長や役場職員、町議会議員とも接する機会が多い。一般質問のように、議場で、少年議員の質問に町長が答弁するといった場も設けられている。一人前の大人として、正式な機関として遇されていることが、彼らのモチベーションにも繋がっている。

以上、若者の投票率向上といった目的もさることながら、自ら考え自ら行動をすることができる人材、堂々と自分の意見を自分の言葉で伝えることができる人材。話し合いの中で課題を解決していくことが出来る人材、こういった人

材を育成するためにも、10年間の座学より、1年間の少年町長・議員の経験の方が遙かに役にたつだろうと思った、是非、弘前市でも実現したい。

●山形県酒田市

酒田市の視察について、以下の3点について、所感を記す。

1, データの重要性

根拠となるデータ・数字もないままに、施策を遂行していくのは、海図も持たずに、小舟で大海にこぎ出すようなものと等しい。運よく、目的地につくことも無いとは言えないが、不確定極まりない暴挙だ。

しかも、その基となるデータは、サンプル数が多ければ多いほどいい。適格に分析することで、より正しい指針が示される。酒田市の例が、それに当たると思う。

しかし、弘前市も含め、多くの自治体の施策の中には、数字的根拠もないまま進められているものも散見される。データがあったとしても、国による調査統計だったり、市民アンケート調査の結果だったり、極めて固定的で大雑把であったり、狭い地域に限定されたものであったり、即時性に欠けるものが多いように思う。これからの議会審議の中で、その点を質していきたい。

2, 外部専門家の活用

酒田市は、この事業を始めるにあたり、外部からの専門家にプロジェクトリーダーを委ねている。私たちに応対してくれた方も、それぞれ大学・経済産業省・地方銀行からの出向者であった。「出向期間が過ぎればどうするんだ？この事業を引き継げる市職員の育成は必要ないのか？」と質問したところ、「市の職員には職員の役割があって、このプロジェクトを推進していくのは、専門家であることが望ましい」という明確な答えが返ってきた。なるほど、それにも、一理も二理もあるなあと感じた。

3, データを活用できる人材の育成

結局、これからの時代に必要なのは、世の中に存在する膨大なデータの中から、どれをどのように引き出して、どう分析して、どのように活かしていくことができるか、といった能力だと思う。データを使いこなせる人間、データの中から課題を解決できる人間がより求められる。

酒田市では、今回のプロジェクトでも、地元の高校や大学と連携して、そういった人材育成のプログラムも行なっている。人材を育て、データマーケティングの先進地を目指している。もはや、地域経済活性化の核を、大規模工場の誘致に頼る時代は終わったようだ。

行政視察の所感について

日 時	令和2年1月28日(火) 29日(水)
視察先・項目	山形県遊佐町～子ども町長、子ども議会の取組 山形県酒田市～データマーケティングを活用した地域活性化
視察者氏名	竹内 博之

●山形県遊佐町所感

私は学生時代より若者の政治参加について非常に重要であると考えており、自身においても啓発活動など行ってきた。それらの経験により、今の私があると言っても過言ではない。それを踏まえ、今回の山形県遊佐町の取組は非常に関心が高かった。一番に知りたいと思ったのは、子どもたちが「どこまで主体的に関わっているか」である。今回は、現子ども町長及び、子ども議員とも意見交換ができたことで、行政がどこまで事業に踏み込み、子どもたちがどれだけ主体的に取り組んでいるのかをしっかりと実感することができた。

現子ども町長及び子ども議員との意見交換では、学校の先生や親以外の大人と交流することや、人前で話をする機会が多いことで、「自分の意見や考えに自信を持つことができた」、「自分が本当に挑戦したいことは何かを考えることができた」など前向きな意見が沢山でてきた。また、自分たちのアイディアや意見が町政に反映させることは「私たちの声や考えも町の発展には重要だ」と実感することができたと言う。また、私からは「夢はある？」という質問をさせていただいたが、対応してくれた3人が自信を持って自分の言葉で答えてくれた。主権者教育の根幹は、自己実現したい明確な目標に対してチャレンジする意欲を醸成することだと思う。引いてはそれが、町の活気や社会参画、そしてまた政治参画に繋がると思う。若者の実態調査において、社会参画や将来に対するイメージが諸外国と比べて相対的に低いというデータがある。これら課題を解決する鍵も主権者教育にはあると考える。

この事業の目的は大きく3つある。①若者たちが、自らの代表を直接選び、政策を実現していくことで、学校外で民主主義を実際に体験・学習することにより社会の構成システムを学ぶこと。②中高校生等の未来を担う若者の視点から、町政への提言や意見を町が積極的に採り上げることを通じて、若者の町政参加を促すこと。③この事業に関わるすべての関係者が、若者の町政に対する意見に学び、併せて若者たちが、社会システムや民主主義を相互に学ぶ場とすること(相互教育)。

大人が考えた政策パッケージに対して、子どもたちが単純に参加するだけでは事業効果は生まれないと考える。子どもたちが参加した先に、議論した内容が成果物として町に反映させなければ、子どもたちは議論をして終わりとなってしまう、自分たちの意見・意思が町政に反映されたという成功体験にも繋がらないと考える。遊佐町の取組の特徴として、子どもたちの話し合いによって出された成果物に対して、実際の予算を付けていることが子どもたちの主体性を育む大きな原動力になっていると思う。

●山形県酒田市所感

酒田市のデータマーケティングを活用した地域活性化の取組は全国の自治体でも先進的だと思う。東京のビッグデータを取扱う㈱トゥルーデータとの協定により、購買力データなどを基に地元企業の事業支援を行うというものである。また、それらデータ活用をできる人材育成も同時に行っていこうとするものである。都市部の民間企業でこそ、データに基づくマーケティングを実践している印象はあるが、地方の自治体がパイプ役となって、地元事業者の育成支援を行っている点は非常に珍しいのではないかと考える。この協定の背景にはこの事業の中心を担う平尾氏（外部人材）の存在が大きい。㈱トゥルーデータ社長と人的ネットワークがあり、その繋がりで酒田市との事業展開が決まっている。この外部人材を活用したこれからの地域活性化は非常に重要であると考ええる。また、本事業の中心を担う人材も基本的には外部人材で構成されている。地元金融機関や経済産業省からの出向者、経営者など多様なメンバーが関わっており、行政は事務局機能を担っている。専門分野を自前で調達することは簡単なことではないため、だからこそ外部人材の活用がこれからの新しいまちづくりにおいては重要であると感じた。

本事業は2019年6月からスタートしたため、データマーケティングを活用した具体的事例は少ないものの、データに裏付けされた戦略は今後ますます重要であることは言うまでもないため、これからの展開に期待したい。





山形県遊佐町
町長 時田博機

〒999-8301
山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211
TEL: 0234-72-3311(内)
FAX: 0234-72-3310



山形県遊佐町
教育委員会教育課

課長補佐 兼
社会教育係長
後藤夕貴



コンシェルジュ

平尾 清

Hirao Kiyoshi

SANROKU

酒田市産業振興まちづくりセンター

〒998-0044

山形県酒田市中町 2-5-10 酒田産業会館 1F

Mobile. [REDACTED]

Tel. 0234-26-6066

Fax. [REDACTED]

E-mail. [REDACTED]

www.facebook.com/co.sanroku

sanroku.jp



酒田市議会事務局

議事調査係

主査兼係長 守 屋 淳

〒998-8540 山形県酒田市本町二丁目 2 番 45 号

TEL 0234 (26) 5770 FAX 0234 (26) 5790

E-mail: [REDACTED]